

1. 開会 16:00

2. 市長挨拶

平素から、地域包括支援センターの運営あるいは事業の推進にご理解とご協力をいただいておりますことに、この場をお借りして御礼を申し上げます。

今日の会議では、地域包括支援センター運営協議会においてはセンターの運営強化、ケア推進会議においては政策への提言、そして事業内容の必要な検討ということでご意見をいただくことになっています。ぜひ、忌憚のないご意見をいただき、このセンターがさらに充実・発展できますように、みなさんのご協力をよろしくお願い申し上げます。開会にあたってのご挨拶に代えさせていただきます。よろしくお願いいたします。

3. 会長・副会長挨拶

小山内会長：

地域包括支援センター会議及び地域ケア推進会議は、高齢者を含め、より住みやすく安心して生活できる地域をつくるために、頑張っていかなきゃならない組織と考えております。

コロナの第7波でお忙しい中お集りいただきましたけれども、富良野地域の高齢者のより住みやすい街、安心して生活できる街を作るために、皆さんと協力して頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

福永副会長：

現在、私共も社会福祉法人として、特別養護老人ホームの運営など各種事業を行っていますが、なかなか厳しい状況もあります。そういった中で、富良野市の方々のために微力ではありますが、何か力になればと思ひまして、この会議の副会長を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

4. 議事

(1) 令和3年度 富良野市地域包括支援センター事業報告について

① 事業報告

② 収支予算

⇒議案に基づき、事務局より説明 16:15-16:35

(質疑・応答)

草野委員：

総合相談支援業務の訪問の目的別内訳について、令和3年度の要介護認定調査訪問件数が過去と比べると減少しているが、減少している背景として考えられることがあれば教えていただきたい。

認知症総合支援事業について、今まで認知症初期集中支援チームがなかなか起動しないのは何故なのか毎回質問させていただいていたが、今回、認知症に関する相談対応の支援内容別の内訳で、どういう事例があるのかといったことや、情報共有をしていることが記載されており、とても分かりやすいと思った。チームが動く前にきちんと事前に支援に繋がっていることが分かったので、大変参考になった。逆にわからなかったのが、初期集中支援チームの支援が必要な事例とは、どのような事例を想定しているのか教えていただきたい。

在宅医療・介護連携推進事業について、ワーキングチームの会議で、課題及び具体策の検討をしていると記載されているが、具体的にどんな内容か教えていただきたい。

事務局：

要介護認定調査訪問件数については、地域包括支援センターの職員が認定調査を行った件数を記載している。これまで、協会病院やふらの西病院等に富良野市以外の住民の方が入院されている場合は、遠くから調査に来るのが困難なため富良野市に認定調査を委託されることが多く、富良野市の職員が認定調査を行っていたが、地域包括支援センター以外の居宅介護支援事業所の方にも認定調査をできる方がいるため、そちらのほうにお願いして認定調査を行っていただくケースがあり、そのため、市の直営として認定調査に行った件数が減ったという状況。認定調査数自体は大きくは変わっていない。

認知症総合支援事業については、認知症の相談を受けた場合、どういった事例にどういった支援をしているのか明確にできるように、毎日相談内容を集計しているため、今後も報告していきたいと考えている。

認知症初期集中支援チームとして活動する事例としては、国が示している内容として、通常の総合相談業務や地域のなかで解決できない事例と言われている。通常地域包括支援センターの総合相談業務で概ね半年を目途に、サービスや医療機関に繋がらない、いくら我々が訪問しても支援に繋がらないといった場合については、初期集中支援チームを活用するという方向で考えている。定期的に、我々が受けている認知症の相談を認知症初期集中支援チームの皆さんに情報提供し、支援チームを使った方がいいのではないかと助言をいただいた場合はすぐにチームに繋げていけるように体制をとっていきたいと考えている。

在宅医療介護連携推進事業については、ワーキングチームの会議を行っている。これまで、医療と介護の連携で課題となっているのは、介護のほうで、医療者がケアマネージャーがついているのかついていないのかわからないというような課題が多かったため、居宅介護支援事業所利用者名簿を作成し、ある程度連携はできるようになった。今現在行っているのは、今後どういった課題が出てくるかというのをワーキングチームのなかだけで話し合いをするのは難しいため、関係機関の皆さんに、いわゆるヒヤリハットのような連携の中で起きてくる問題点を、そういう問題がおきたときにインシデントレポートとして地域包括支援センターに報告していただいている。それがある程度溜まった段階で、ワーキングチームの会

議を開催して共有し、それについてはこういったツールがあるといいのではといった話し合いを考えている。

福永副会長：

権利擁護業務の虐待への対応が0件だったが、1件なかったか。警察からハイツへ来たケースは虐待ではないのか。

事務局：

DV 案件として処理している。

中村委員：

総合相談業務の関係機関連絡調整のその他機関に裁判所と説明があったが、裁判所とは何か。

事務局：

成年後見制度を申し立てるときに裁判所に申立てを行う。その関係で裁判所とのやり取りがある。

(2) 令和4年度 富良野市地域包括支援センター事業計画について

① 事業計画 (案)

② 収支予算 (案)

⇒議案に基づき、事務局より説明 16:45-16:55

(質疑・応答)

草野委員：

地域ケア個別会議に関して、先日のケア会議の研修会で、会議に関わる専門職を増やせた方が良いという内容があった。歯科衛生士や管理栄養士、薬剤師等、今後個別ケア会議に参加する専門職を拡大していく予定があるか伺いたい。

認知症総合支援事業について、ケアパスを見聞きする機会が少ない。広まっていないことが例年の課題だと思う。ケアパス内容の更新やさらなる普及啓発の方法について検討いただきたい。

事務局：

地域ケア個別会議への専門職参加の拡大については、関係機関会議などに薬局の薬剤師も参加したいという意向もあり、こちらから案内をし、参加していただいている。今後、栄養士や薬剤師にも助言者として参加していただくことも良いことだと思っているため、参

加していただけるように声かけをしていこうと思う。薬剤師は、その店舗にいる期間が短く、次の会議のときには担当がいなくなり、長期に繋がるのが難しい状況ではあるが、助言者の枠を増やしていき、多職種の意見を反映できるような会議にしていきたいと計画している。

認知症総合支援事業のケアパスについては、質問のとおり、コロナ禍で外に行くことが難しい状況もあり、周知が広まっていない状況。ケアパスの内容を見直しながら新しいものに更新して、地域包括支援センターの周知と合わせて、集いの場やサロンに運んで行ったり、関係機関の窓口に置いていただき、目にできるような体制をとっていきたいと考えている。

(3) 地域密着型サービスについて

⇒議案に基づき、事務局より説明 17:00-17:10

(質疑・応答)

福永副会長：

運営推進会議の回数について、GH あんしんふらのが開催なしとなっているが、開催しなくて良いのか。

事務局：

開催は年6回として義務付けられている。新型コロナウイルス感染拡大防止のために文書で開催することも可能なため、運営指導等で指導していく。

草野委員：

小規模多機能型居宅介護の利用者ニーズは高いと思うが、こういった形で事業者自体が廃止された場合には、今後これに代わる小規模多機能的なところを市として支援する手立てはあるのか。何か市として今後の方策などあれば教えていただきたい。

事務局：

ニーズは高いように思うが、小規模多機能型居宅介護の利用定員には達しない状況。ニーズは高いと思っはいるが、なかなかサービスにはつながらない状況。包括報酬もあるため、中にはデイサービスを希望される方もいる。

草野委員：

続けての意見となるが、関わる専門職として肌身で感じるニーズと、実際に利用されるサービスがうまくつながらない。何が課題となってそうなのかかわからないが、小規模多機能の自由度の高いサービスの関わり方は、困難事例には有効だと個別ケア会議を通して痛感する。必要なサービスだけで利用者増加につながらないというのは、事業を応援する

というわけではないが、必要なサービスの選択肢が、市民にとって選べるサービスが減ってしまうのは不利益になっていくと思うため、専門職も一緒になって考えなくてはならない。そういったところのギャップを今後どういう風に整理していくのか検討会議などで一緒に考えていきたいと思う。

小山内会長：

廃止した小規模多機能型居宅介護の利用者は、全員受け入れが決まったのか。

事務局：

全員次のサービスにつながった

部長：

補足の案内となるが、今回廃止になった事業所は本体が東京にあり、100 を超える施設を運営していた法人で、その法人が倒産した。グリーンケア灯自体が原因で閉鎖せざるを得なかったわけではないことを、情報として補足する。

(4) 地域包括ケア推進に関することについて

- ① 第7期富良野市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画における実績
⇒議案に基づき、事務局より説明 17:10-17:35

小山内会長：

地域包括推進ケアに関することとして、色々中身は濃かったのですが、質問・ご意見等はありませんか。

(質疑応答)

なし

小山内会長：

質問・ご意見等がなければ、いろいろ大変だとは思いますが頑張ってやっていかなければならないので、富良野市として地域で住みやすい環境をを作っていくためにも、高齢者が増える中協力して頑張っていきたいと思います。

その他、事務局から何かありませんか。

事務局：

来年度第9期計画の作成がありまして、それに向けた富良野圏域ニーズ調査の富良野市の独自項目について、次回行われる地域ケア推進会議で調査項目について精査していただ

きたいと思います。また在宅介護実態調査につきましては、国が調査項目を決めていますので、調査項目についてお知らせしたいと思っています。

小山内会長：

最後になりますが、全体を通してご質問、ご意見はありませんか。ないようでしたら、これで第1回富良野地域包括支援センター運営協議会および第1回富良野市地域ケア推進会議を終わらせていただきます。

本日はお忙しい中、お集まりいただきまして大変ありがとうございました。